



新しい日本の復興へ

レンゴー社長 大坪 清

今回からこのコーナーに書かせていただくことになった。読者の皆さまには、しばらくの間お付き合い願いたい。

去る3月11日、東北地方太平洋側を中心とする大地震と津波が発生した。その想像を絶する激甚な被害と惨状は、日本国民を絶望の奈落へと追い落とした。さらに、福島第一原子力発電所での相次ぐ事故と危機的状況が追い討ちをかけた。

私がトップを務めるレンゴーのグループ各社でも、レンゴー福島矢吹工場、同仙台工場、福島県の丸三製紙、朋和産業仙台工場等々をはじめ多くの工場が被災した。中でもレンゴー仙台工場と丸三製紙の被害が特に甚大である。

レンゴー仙台工場は、仙台新港にあり地震はもちろんのこと、大津波により壊滅的な被害を被った。地震直後、津波に備えて従業員は隣の倉庫に避難したが、最初の津波が去った後、帰宅するために戻りかけたところ

で、本当の大津波が来た。危うく難を逃れ、全員が無事であったのは幸運としか言いようがない。

また、丸三製紙は福島第一原発から25キロの南相馬市にあり、原発事故処理の運命と共にある。その他、当社に限らずあらゆる産業で未曾有の被害が生じている。

この国難とも言える極めて厳しい状況の下、自衛隊、警察、消防、各自自治体をはじめ日本中が一丸となって救助、救援、復旧に向け取り組んでいる。特に、福島第一原発で決死の覚悟で原子炉保全作業に取り組んでおられる方々には本当に頭の下がる思いだ。

当社でも、現地の従業員が本社からの応援も得て、電気も水もエネルギーも断たれ、散り散りになりながら、余震や原発の恐怖に耐えながら、まさにギリギリの状況の中で、それぞれの工場の復旧に向けて踏ん張ってくれている。福島矢吹工場については、皆の努力で再建のめど

が立ち、福島県にありながら稼働を開始した。

今、日本中の誰しもが「何かをしなければ」と思っている。

海外では、この世界最悪ともいえる災禍の中にあっても、人びとがお互いを思いやる心を忘れず、譲り合い、助け合い、律儀で礼儀正しく、我慢強い日本人に驚嘆しているという。

日本は必ず復活する。この国に、いかなる困難にも黙々と立ち向かい、それぞれの現場で自らの使命を全うする人びとがいる限り。そうやって関東大震災からも、先の敗戦からも立ち直り今日の繁栄があるのだ。

この厄災を、既存の利害を越えた、新しい日本の、新しい社会システムづくりへの契機としなければならぬ。でなければ、この震災で未来を奪われた多くの命が浮かばれない。

そのため今こそ、名実共に大和の国の全員が心をひとつにし、新しい国づくりを総力を挙げることを誓い合いたい。

本連載は、大坪清、海江田万里、北川正恭、茂木友三郎、清田瞭、平沼赳夫の各氏が担当します